

児童発達支援 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	あいの風キッズステーション			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～	2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～	2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児の受け入れ (全ての医療的ケアに対応できる)	法人の強みである、訪問看護や訪問リハビリ、相談支援事業所と連携や、関連機関とのカンファレンスを実施し、医療的ケアがあっても安心して通所できる環境調整を行なっている。低学年から通所(外出)を経験することで、外出するために必要なこと(物品やサービスを含む)やお子さんの生活基盤を整えるためにはどうしたら良いかをサポートしている。10月からは理学療法士による支援を提供する体制が整い、専門的支援実施加算を算定するようになった。	医療的ケアがあっても、外出やプール、公園での遊びを充実させていく。 緊急時ロールプレイなどの医療研修や専門職(リハ)の研修機会を持ち、支援の質向上を図る。
2	少人数からの社会参加	少人数から社会参加へつなげる支援を行なっている。近年は遠足や芋ほりなどの野外活動の機会を増やし、地域の方と交流を持つことができた。	安全配慮を徹底しながら地域のイベントや野外活動など社会参加の機会を拡充していく。
3	就学を見据えた支援	多機能型で放課後等デイサービスを運営している。就学後はどんな生活になるのか、就学までどんな風に生活を整えていけばいいのか、特別支援学校の先生と連携を取りながら支援をしている。保護者会などで学校での様子を聞く機会がある。	就学に向けた不安や心配事の解決につながるよう、必要な情報提供や関係機関との連携、ケアの調整を行いながら支援の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の活動時間が短い	多機能型で放課後等デイサービスを運営しているため、時間的な制約があり活動時間が短い。そのため、活動内容(遠方や長時間の外出、遠足など)が限られてしまうことがある。	遠足や外出時は、活動時間の変更やご家族とケアの調整を行い、活動の幅を広げていく。限られた時間でもいろいろなことが経験できるようプログラムの内容を工夫していく。今後は状況により、夕方までの通所を検討している。
2	少人数のため集団活動が少ない	利用人数が1日2～3名であることや年齢や発達段階に幅があるため、同じ内容での集団活動が難しい場合がある。	活動内容を段階化し、それぞれのお子さんが無理なく参加できる形を工夫する。
3	同年代のお子さんとの関わる機会が少ない	医療デバイスが多く、感染すると重症化しやすいお子さんもおり、注意が必要なため、不特定多数の集団との交流が難しい場合がある。	来年度は近隣の保育園との交流を予定している。保育園の職員の方と連携を取りながら、安全な環境づくりをしながら、同年代のお子さん同士が関わる機会を積極的に作っていく。